

No.18

すべての人に喜びの歌を

通刊 957 号

2011.9.29

# 第九たいはす

担当 GON

ホームページ: [www.takasaki9.com](http://www.takasaki9.com) メールアドレス: [takasaki9@myad.jp](mailto:takasaki9@myad.jp)

〒370-0046 高崎市江木町483 TEL/FAX: 027-323-0233 (団長渡辺) 携帯電話: 080-5474-2673 (事務局長中村)

## ◆第38回演奏会 メソソプラノ小川 明子 (おがわ あきこ)



深々とした芳醇な声で聴くものの心に感銘を残す逸材

埼玉県出身。東京芸術大学卒業、同大学院音楽研究科独唱専攻修了。文化庁オペラ研修所修了。1992年第61回日本音楽コンクール声楽(歌曲)部門第2位入賞。第4回日本声楽コンクール第3位入賞。1993年第4回日本歌曲コンクール第1位入賞、ならびに山田耕筰賞受賞。第10ニッカ・カルメンシータ新人賞第2位。97年11月より文化庁派遣芸術家在外研修員として1年間オーストリアに留学、アデーレ・ハースに師事。

オペラではモーツァルト『ドン・ジョヴァンニ』、ラヴェル『子供と魔法』、フンパーディンク『ヘンゼルとグレーテル』、シェーンベルク『モーゼとアロン』(演奏会形式)等に出演。1996年には、オペラ研修所20周年記念公演『祝い歌が流れる夜に』(キヨ)、『魔笛』(童子Ⅲ)に出演。また、2005年8月文化庁『ヘンゼルとグレーテル』、11月エド・デ・ワールト指揮東京二期会『さまよえるオランダ人』に出演。

コンサートではヘンデル「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」、バッハ「マタイ受難曲」、ブルックナー等の宗教曲を得意とするほか、ベートーヴェン「第九」の出演も多く、東京フィル、東京交響楽団、東京都交響楽団、読売日本交響楽団、新日本フィル、札幌交響楽団、仙台フィル、群馬交響楽団、神奈川フィル、九州交響楽団など主要オーケストラと共演。1999年東京フィル・オペラコンチェルタンテ『サロメ』、2000年札幌交響楽団定期『グラゴール・ミサ』、同年新日本フィル定期『クリスマス・オラトリオ』、2002年新日本フィル定期『ワルプルギスの第一夜』(メンデルスゾーン)、2003年東京都交響楽団ガリー・ベルティーニ指揮『ロメオ・ジュリエット』(ベルリオーズ)などに出演し、好評を博す。

2006年7月に猿谷紀郎作曲第54回尾高賞受賞作品「ここに慰めはない」でジョナサン・ノット指揮NHK交響楽団と共演し、好評を博した。2007年東京交響楽団サントリー定期にて、ヘンツェ作曲オペラ『ルプパ — ヤツガシラと息子の愛の勝利』(演奏会形式、全2幕、字幕付、日本初演)に出演。

2008年尾高忠明指揮札幌『ピーター・グライムズ』(演奏会形式)でも存在感を示した。

殊に現代音楽の分野では、第一人者として数多くの演奏に携わっており、コルンゴルトなど現代歌曲を中心としたリサイタルを開いている。また、新日本フィル定期リゲティ「レクイエム」、サントリー音楽財団サマーフェスティバルに於けるシェーンベルク『4つの歌』など、エキスパートとしての信頼も厚い。「第九」のソリストや2011年ロッシーニ特集「スターバト・マーテル」等にも出演する。

同時に、日本歌曲にも力を注いでおり、「山田耕筰歌曲集」、「啄木とみすずを歌う」等のCDをリリースしている。二期会会員

## ◆演奏会プログラムの広告を募集します(締め切りは10月末日)

お店や会社、サークルや有志等で掲載していただける広告を募集中です。

① 広告枠1コマ・10000円購入で、招待券1枚進呈。何コマでもOKです。

② 前売券10枚購入で、広告枠1コマを無料サービス。

上記①②いずれかの方法でお申し込みください。(1コマ:A4版の4分の1 約17×6cm)

詳細は受付にある案内をご覧ください。

## ◆ポスター・チラシ・チケットが出来上がりました♪

私たちの演奏会のポスター・チラシ・チケットが出来上がりました♪

今年の「第九」の題字はアルトの中島絹子さんが書いてくださり、前の指導者田村稔先生がデザインしていただき完成いたしました! さあ ポスター貼り、チケット販売頑張りましょう。

## ◆イベント情報

- ☆諸田広美メゾソプラノリサイタル 11月11日(金)18時開演 シティギャラリーコアホール  
ピアノ:ユリヤ・レヴ チケット:前売3000円(当日3500円)
- ☆大山亜紀子ソプラノリサイタル 11月22日(火)19時開演 シティギャラリーコアホール  
チケット:3000円 チケットのお求めはアルト田中久子さんまで

## ◆今後の主な予定

- ☆11月12日(土)、13(日)軽井沢合宿(今日までに申込、追加のみ来週以降可)  
11月12日(土)13:30集合～13日(日)16:00解散(予定)。練習の仕上げを仲間と!
- ☆11月24日(木)指揮者レッスン 本名先生のレッスンは貴重な1回のみです。  
レッスン当日は必ず出席できるように、今から体調と日程の調整をしておいて下さい。
- ☆12月3日(土)高崎市民クリスマス出演(多くの音楽団体がクリスマスの曲を披露します。)  
高崎市役所1階ロビーにて(詳細は未定ですが、例年15:00くらいの集合です)
- ☆12月25日(日)足利第九演奏会 指揮:梅田俊明(例年男声陣が応援出演しています)

## ◆ドイツ旧貴族のお城で「尺八演奏」の旅

バス 大里和熙

今年は、「日独交流150周年」、私達の第38回第九演奏会もこの記念行事と位置づけています。9月15日～21日まで、フランクフルト日独協会が主催するドイツ旧貴族のお館(ウイリヘルム三世、ヴィクトリア女王の曾孫モーリス公の居城)で3日間にわたり開かれた「ジャパンデイ」に親戚の箏曲一門の一員として参加してきました。私たちの他、太鼓、茶道、長唄、お囃子、日本舞踊計90名が日本から渡り演奏活動を致しました。広大な初秋の貴族の館の庭園で、のんびりメイン舞台での演奏、お茶席でのBGM、体験教室など「尺八の先生」として楽しい3日間を過ごしました。

春、秋2回解放され「ガーデンフェスタ」として地元の方々に親しまれている催しですが、今年は『Japantage』も効いてか、有料(14€)にもかかわらず21000人が来場しました。

ドイツ在住60年という初老の日本婦人が「福島の影響はありませんか?」と心配顔で質問してきました。故国の国難に対する思いがその顔にも表れ「大丈夫なように頑張るしかないでしょう」ととんちんかんなご返事をするだけでした。

3日間、着慣れぬ紋付き袴で通し、身体は疲れましたが、注目度は抜群多くの方に写真を撮られちょっとした良い気分でした。毎夕食に飲んだビール、白ワインの味は塩気の強いハムソーセージの味と共に大いに元気を付けてくれ、ご機嫌に過ごせました。イベント終了後は、ルクセンブルグ市観光をし、モーゼルワインを生む葡萄畑の中のホテルで一泊、翌日は2000年前のローマ遺跡のあるトリアーの街を観光してフランクフルトから台風真っ直中の成田へ帰りました。

午後4:10あの台風の中を少し揺れながらもなんとということ無く着陸したBW777の優秀さを改めて感じましたが、その後の地上交通機関は軟弱で、かろうじて運行の高速バスに乗り、三島を目指しましたが、東名高速の開通待ちで8時間かかり、我が家に着いたのは午前3時を回りました。良い経験でした。



日独交流150周年  
Jahre Freundschaft  
Deutschland-Japan



## ◆「草津音楽祭2011」報告

ソプラノ 小林薫子

ソプラノ小林薫子さんから投稿がありました。大作ですので<タイムズ 957号 別刷り>としました

### ◆「草津音楽祭2011」報告

ソプラノ 小林薫子

今年も毎年恒例の草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバルが8月17日から8月30日まで行われ、32回目となった今年の音楽祭のテーマは「未来の王国へ」フランツ・リストとロマン主義音楽でした。今年の私の音楽祭期間中の草津滞在期間は、8月18日から8月23日、8月25日、8月30日の8日間で、初日の18日は夜の練習が終わったら自宅に戻り、19日から22日までの3泊4日で草津のペンションに泊まりました。

さて、今年も私は合唱クラスを受講しましたが、レッスンは18日から始まり、コンサートは21日でした。今年の合唱曲はF.リスト「ミサ・ソレムニス」で、演奏は指揮J.E.デーラーさん、オーケストラ:草津フェスティバル・オーケストラ、ソプラノ:天羽明恵さん、アルト:日野妙果さん、テノール:小貫岩夫さん、バス:太田直樹さん、合唱:草津アカデミー合唱団(合唱指揮:栗山文昭さん)でした。この曲は通常のミサと同じく、「キリエ」、「グロリア」、「クレド」、「サンクトゥス」、「ベネディクトゥス」、「アニュス・デイ」から成り、「グロリア」のファンファーレの主題が最も多く全曲の中で使われ、「ベネディクトゥス」は「キリエ」の中の〈クリステ・エレイソン〉の旋律が発展した形を取っています。「アニュス・デイ」は全曲を反復するような形で、結晶、結合されて全曲を締めくくります。そして、この曲のオーケストラにはハープもあったのでとても美しい曲だったと思います。ただ、今年の曲はかなりの難曲でソリストの方々もかなり苦労されていたり、合唱団でも直前になって辞退した方もいらっしゃいました。私も毎年6月の半ば頃からCDを聞いたりしながら練習をしています。ほぼ毎日聞いていたので曲自体は2〜3週間で頭に入りましたが、練習はいつも以上に苦労しました。

そして、草津入りしてからのレッスンは3日しかないためにかなりのハードスケジュールで疲れましたが、その中には楽しさもあり、とても充実していました。今年の合唱のコンサートのチケットは完売にはなりませんでした。ほぼ満席で大盛況のうちに終演しました。やはり苦労して練習した甲斐があったと思います。私の知り合いの方も数人来て下さっていたので本当に嬉しかったです。

コンサート終演後は草津町の洋食のレストランで私と去年合唱クラスと一緒に受講した友達、そして草津アカデミーねっとに登録されている男性2人の合計4人でちょっとした打ち上げもし、その後は私と友達の2人でアーチストクラブへ向かいました。まだ、音楽祭も前半で人は少なかったのですが、友達と一緒にあったのでとても楽しい時間を過ごすことができました。

コンサート翌日の8月22日は友達のマンションに泊めさせていただけることになったのでまず自分の車でマンションまで行き、少し休んでから友達と白根レストハウスで行われた街角コンサートに行きました。こちらは急な坂やカーブが多くて自分で運転して行くのは危ないので草津バスターミナルからバスで行きましたが、片道30分と少し遠いところにあります。目的地に着いて、コンサートまで時間があつたのでレストハウスのレストランで食事をしましたが、とても美味しいものが食べられて良かったです。そしてコンサートの時間になり、外へ出ましたが、霧がかなり濃くて近くの景色も見えにくい状態でした。山の天気は変わりやすく、晴れ間があつた時間もありましたが、あつという間に霧に包まれてしまいます。

コンサートは毎年お馴染みのアカデミー・アンサンブル音泉の皆さんによる演奏でした。こちらのグループは草津アカデミー&フェスティバルのスポークスマンとして25年以上の歴史を持つ街角コンサートに出演され、音楽祭のテーマや草津にちなんだ名曲を町内各地で演奏しています。また、友の会の協力で、アカデミーの紹介や音楽の森国際コンサートホールで毎日行われる演奏会などの案内も行っています。今回街角コンサートで演奏された曲は草津節で開演し、映画の主題歌、モーツァルトのオペラ「魔笛」のメドレーなど親しみのある曲ばかりでした。短い時間ではありましたが、とても楽しい時間を過ごすことができました。その後もバスの出発まで少し時間があつたので近くを少しだけ歩きましたが、とても自然が豊かなところだと感じました。そして、バスで下山し、バスターミナルまで行き、そちらから湯畑を通り、マンションまで歩きましたが片道20分くらいなので少し疲れました。

また、少しだけ休憩し、16時からコンサートに行きました。この日のコンサートは草津アカデミー講師でソプラノ歌手のリン・ドーソンさんのリサイタルでした。プログラムはF.メンデルスゾーン「無言歌」より「さすらい人」、「羊飼いの嘆き」、「ヴェネツィアの舟歌第2」、「甘い思い出」、「紡ぎ歌」、F.リスト「もし美しい芝生があるなら」、「愛の夢」第3曲「おお、愛せられるかぎり愛せよ」、G.フォーレ「リディア」、「夢のあとに」、R.シュトラウス「夜」、「万霊節」、「献呈」など盛り沢山となり、とても素晴らしいコンサー



トとなりました。今回は私の知らない曲が多かったのですが、自分が歌ったり、伴奏したことがある曲も数曲あり、私にとってはとても勉強になりました。

コンサート終演後はマンションに戻り、食事をしてから、20 時からのポピュラーコンサートに行くために再びコンサートホールへ向かいました。このコンサートで印象に残ったのはまず、ピアノの岡田博美さんによる演奏で F.リスト:ハンガリー狂詩曲 第 13 番 イ短調、慰め(コンソレーション) 第 3 番 変ニ長調、メフィスト・ワルツ 第 1 番「村の居酒屋の踊り」でした。リストの曲は難曲が多いですが、この 3 曲の中で一番難しいと感じたのはメフィスト・ワルツ第 1 番「村の居酒屋の踊り」でした。こちらの曲は、初版の楽譜にはレーナウの『ファウスト』からの引用が印刷されています。物語はメフィストフェレスに連れられて陽気に浮かれ騒ぐ村の居酒屋にやってきたファウストは、肉感的な娘にひきつけられ、メフィストフェレスが弾くバイオリンの誘惑する音色に導かれて、娘と共に森の中へと消えて行きます。レーナウの詩はとても官能的ですが、リストもそれに答えて、旋回するワルツのリズムの中で燃え上がる感情を巧みに表現しています。次に印象に残ったのは珍しい楽器でもあるハーモニウム=チェレスタの演奏で曲は F.リスト:「クリスマスツリー」より「昔のクリスマス・キャロル」、「飼葉桶のそばの羊飼いたち」、「ツリーに点火するとき」、「グロッケンシュピール」、「子守歌」で、演奏はクラウディオ・ブリツィさんでした。こちらの楽器は足踏み式ペダルで空気を送り込むフリー・リードの鍵盤楽器ハーモニウムと、鍵盤によってハンマーが金属片を打つチェレスタとが一つになった楽器で 2 段鍵盤の上段がチェレスタ用、下段がハーモニウム用になっていて同時に鳴らすことができます。珍しい楽器だったのと美しい音色だったのでこのコンサートのプログラムの中で一番注目されていたと思います。また、楽器の写真を撮っている方もいらっしゃいました。この他にも F.リスト:ピアノ三重奏曲や W.A.モーツァルト:クラリネット五重奏曲などがありましたが、とても素敵な夜を過ごすことができました。

そして 8 月 23 日の午前中は声楽のマスタークラスのレッスンの聴講をしました。こちらのクラスの受講生は今年は 12 人でしたが、今回私が聴講したのは 12 人のうち 4 人から 5 人くらいでした。そして私が聴講した曲は W.A. モーツァルト:モテット「踊れ喜べ幸いなる魂よ」、R.シュトラウス:「献呈」などでした。この音楽祭は海外からの先生が多数来日するのでマスタークラスのレッスンを聴講していると大学時代のウィーンでの短期留学の時のことを思い出しました。また、呼吸の仕方やオペラアリアを歌う時にどのように表現したらよいかなどとても勉強になることもありました。そしてこの後は友達と食事をし、私は自宅に戻りました。

8 月 25 日は声楽の公開レッスンの聴講とホテルでのロビーコンサートに行くために草津に向けて 3 度目の出発をしました。まず公開レッスンですが、受講生は 5 人でした。曲目はシューマン:ミルテの花より「献呈」、シューベルト:「音楽に」、モーツァルト:モテットより第 2 曲、第 3 曲などでした。この公開レッスンでも私が歌ったことのある曲がありました。マスタークラスのレッスンと同様に勉強になることがたくさんあったので普段、自分が練習する時もこのようなことを参考にして行きたいです。そして、夜は草津のナウリゾートホテルのロビーコンサートに行きました。このコンサートはマスタークラスから選抜された受講生によるコンサートです。今回、私が聴いたのはバイオリン独奏 2 人とバイオリン四重奏、オーボエ五重奏でした。曲は弦楽四重奏曲やバイオリンソナタ、オーボエのコンツェルトなどでした。管楽器や弦楽器の演奏を聴くのは久しぶりで、そして短い時間ではありましたが、とても素敵な時間を過ごすことができました。この日も泊まらずにコンサートが終わって自宅に戻りました。

そして、音楽祭最終日の 8 月 30 日はさよならパーティーに参加するため、草津へ向けて 4 度目の出発をしました。この日は私はパーティーの料理のお手伝いをするために天狗山レストハウスの厨房に 15 時に集合しました。今年でパーティーの参加やお手伝いは 3 回目となりましたが、料理なども結構慣れてきたと思います。毎年、パーティーの用意は 2 時間以上かかり大変ですが、皆さんに喜んで食べていただけるので本当に嬉しいです。パーティーは 18 時半頃から始まり、去年に比べると参加者が少し少な目でしたが、アカデミーのアシスタントの方々や先生方、スタッフの方々とたくさんお話をしたり一緒に写真を撮ったりできたのでとても楽しい時間を過ごすことができました。20 時頃になると海外から来日した先生方のお見送りをしますが、やはりとても寂しい気持ちになります。今年は東日本大震災による原発事故や電力不足などの影響で、中止や延期になったコンサートやイベントもたくさんあったようですが、そう言った中で予定通りに音楽祭が開催されたことは本当に素晴らしいことだったと思います。そして、今年は音楽祭期間中は殆ど天気が悪かったのは残念でしたが、今まで以上に充実したアカデミー生活を送ることができました。

ソプラノ 小林薫子